

委員OB会

世代を超えて 図書委員であれば誰でも

石井 あさみ(日十五年卒)

十二月二十日、図書委員会の何十回目かの同窓会が行われた、便宜上同窓会と述べているだけで、実態は何のことはない親睦会である。それがいつの間にか約二回行われる恒例行事となっていた。

参加者の年齢はバラエティに富んでいる。司書であった大久保さんや、館長を務めて頂いた先生方がいらつしゃることもあるが、生徒でも在学期間が重ならないメンバーが多い。一回り近く離れている後輩もいるが特に気になることはない。図書委員であるなら誰もが等しく「同窓」なのだ。

こういう学年や世代を超えた連帯感、卒業生が頻りに図書室に遊びに来たり、九里祭での展示製作を手伝ったりしてたことで培われていったものだと思う。そしてそんな大人げない卒業生を受け入れてくれた在校生や各先生方、大久保さんのおかげでもある。こうしてみんなが居心地の良い図書委員会という場を長年築いてきたのだ。社会人として過ごす時間が増えるにつれその場は時に居酒屋に移っていったが、ただそれだけで、そこにある空気は学生時代と変わらないものである。



今回も二十人近い人数が集まった。この日は前日からの降雪による悪路が目立っていた。そんな中でも山形からの参加者や庄内から駆けつけた猛者、多少の面倒など物の数ではないと集まった面々。本当にただ食べて、飲んで、話をするだけのものである。

同窓会と呼ぶにはあまりに気安い。だが、それが楽しくてまた次回もそれ以降も、やはり集まるのだろう。

ご存知ですか 九里家のルーツ

鮎を祀る

教諭 遠藤 英



建て替えられた山形銀行米沢支店の駐車場奥(西端)に、九里家の祠がある。ここは葉種問屋九里家の本家「越前屋」の跡地で、祠はこれまで旧店舗の裏手に在って、歴代支店長により例祭が執り行われてきた。祭神赤淵大明神は鮎を神格化したもの。戦で沈みそうになった船を無数の鮎が支えてくれて勝つことができた、という由緒があり、越前(福井県)の戦国大名朝倉義景の氏神であった。織田信長が朝倉家を滅ぼしたときに義景の姫が越中(富山県)に逃れて「九里」を名乗ったといわれ、一族の一部が上杉家に付いて米沢に至り、この地に屋敷を構えた。とみ先生も決して鮎を食べなかつたそうだが、茂三先生にはそれでは困る場もあるだろうと許可したとのこと。九里家が辿った朝倉→富山→薬→北里研究所→福沢諭吉→教育→九里裁縫女学校という縁のリレーを見守ってきた赤淵大明神が、いま丁寧な説明板が添えられて、旧校地(現校長宅周辺)を望む地に安置されたことは嬉しい限りである。

編集後記

「災害は歴史に聞け」といつか古文書には当時の詳しい状況と数値が記録されています。米沢の国玉の中にもそのヒントが隠されているのではないかと解読に挑戦しています。年齢を問わず学ぶ事は楽しいことです。得意な分野で、頭と身体を動かすね、日々を豊かなものにしたいです。(新井)



アドレス <http://all-kunori.net/>
投稿はメール、封書、はがきでお送り下さい。
(1)メールあて先 dousou@tw.kunori-h.ed.jp
(2)封書、はがき(表紙の住所を記載下さい)



- ★同窓生の集い(総念)は、六月二十七日(出)です。その運営当番は卒業年が八と九のつく学年(昭和二十八、二十九、三十八、三十九、四十八、四十九、五十八、五十九、平成八、九、十八、十九、二十七)です。詳しくは別紙を参照の上、お申し込みいただきますようご案内いたします。また、左記アドレスからもお申込みいただけますのでご利用ください。
- ★クラス会をされた方は事務局までご一報ください。
- ★九里祭で同窓生の作品を募集しています。